

バングラデシュの水供給困難地域における 安全な水利用のための環境教育

活動地域  バングラデシュ



教員研修での簡易浄水装置の作成状況

課題

バングラデシュ水供給困難地域での安全な水利用実現のため、子どもたちが主体的に関わる環境教育の実践活動を支援し、環境教育モデルの普及、調査解析活動を行う。

目標

目標は住民主体の給水施設維持管理による安全な水利用であり、環境教育はその目的達成のための重要な手段という位置づけである。



今後の展望

安全な水利用のための研修を受けた教員たちが、今後生徒たちに実践を交えた指導を行い、さらにその成果を子どもたちが地域に伝えていくことが期待される。塩水化地域で、ヒ素汚染地域での環境教育モデルが普及する。

ひろげる助成

1年目

実践

活動内容と成果

- 学校での啓発セミナーや給水施設実態調査の準備・実践を中学校生徒が主体的に行うことで、子どもたちが生活と密接に関連したESDを体験でき、自ら給水施設の管理と運営ができるようになることが期待される
- 子どもたちの純粋な思いによる安全な水利用への取組みは、経験交流会やワークショップを通じて地域行政関係者の意識変革を誘発すると考えられる
- 最終的には、地域住民による給水施設の維持管理活動を地域行政が支援するという、安全な水利用についての望むべき姿に近づけていきたい



給水施設モニタリング風景

教員研修の参加者数 **10人**

維持管理支援による給水施設の利用 **2,690人**

今年度計画の達成度 **10%**

目標達成度 **10%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスの影響で日本人が現地に渡航することができず、現地活動状況の正確な把握が難しかった。

■工夫した点

現地スタッフとのテレビ会議による定期的な会合により、適切な意見交換ができ、現地の状況把握ができるようになった。